

活動報告書

報告者氏名：安 三保子

所属：小学部

記録日： H 2 5 年 2 月 2 5 日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

小学部 4 年

・ 障害名

脳性まひによる移動機能障害

・ 障害と困難の内容

下肢と左手にまひがある。右手は、日常生活に必要な程度の動きは可能である。

文字を読むことができる。書くことはできない。

相手の話は理解することができる。発声が無いため 50 音表の指差しやジェスチャーでコミュニケーションをとる。

【活動目的】

・ 当初のねらい

○話すこと・・・50 音表を読んでもらい意思を伝えることはできていたが、誰かに読んでもらわないと伝えられないという不自由さがあった。また、日直や係活動では、教師が変わりに読み上げて活動していたので依存的な態度になりがちだった。そこで,iPad の使用により自分で伝えることで活動がより主体的になるのではないかと考えた。

○書くこと・・・お話作りが好きなので、自分の考えたことを表現する手段として使用することを目的とした。

・ 実施期間

6 月～2 月

・ 実施者

安 三保子

・ 実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

教師を呼び、50音表を読んでもらうことでコミュニケーションをとることがおおよそできていた。自分の思いが伝わらない時や思い通りにいかない時には、泣いて騒ぐ様子が見られた。

日直や係の仕事（献立発表）では、教師が変わりに話すためか自分の活動という自覚が持てず人任せの様子が見られた。

機器の音声が苦手だったので、50音表でのコミュニケーションを好んだ。

書くことは、パソコンか教師が代筆していた。

・活動の具体的内

「DropTalk」のアプリを使用し、係活動（給食の献立発表）を自分で行えるようにした。担任の声で録音できるため、機器の音声が苦手な本児でも受け入れやすいのではないかと考えた。慣れてきてからは、場面ごとに必要なシンボルマークを作成し、日直の仕事や挨拶、集会の司会、支援の依頼「○先生・食器を・片付けて下さい」など本児がシンボルを組み合わせて簡単な文を作れるようにアプリを設定していった。

会話では、「かなトーク・かなトーク plus」を使用した。音声を出すことで離れていても伝えられる場面を設定し、その利便性を本人が感じられるようにした。

書くことでは、「StoryKit」「メモ」で絵本作り、「日記メモ」で写真入りの日記を書いた。

車椅子に机を付けiPadを常に使えるようにした。

・対象児（群）の事後の変化

○話すこと・・・

「DropTalk」を使用したことで、日直や係活動が一人でできるようになった。

離れたところから教師の名前を読んだり、依頼したりする様子が見られるようになった。

「かなトーク・かなトーク plus」を使用したことで、会話のやりとりがスムーズになった。

授業で発表するようになった。

○書くこと・・・

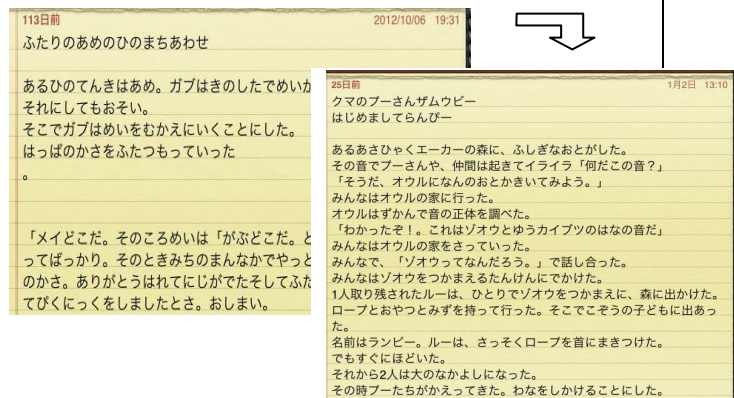
「StoryKit」「メモ」を使用したことで、

漢字、句読点を使って文を書くようになった。(写真)

余暇の時間に物語作りが自由にできるようになった。

「日記メモ」を使用したことで、

学校や家庭の様子を伝えられるようになった。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象児は、これまで教師が支援しながらの活動がほとんどだった。iPadの使用により、自分が操作することで状況を進められたり気持ちを伝えられたりすることができた。そのことにより、学習活動やコミュニケーションへの意欲が向上したように感じる。また、図書室で本を借りるなど様々な場面での使用が見られるようになってきたので、校外での使用を目指して取り組んでいきたい。

・エビデンス

活動ごとに必要なアプリを選び使っている。(50音表を使わなくなった)

・その他エピソード(画像などを含めて)

日記を毎日書くことで、家庭学習が習慣となった。

気持ちを表現しやすくなったのか、泣いたり騒いだりすることが減ってきた。

好きなことを自由に調べ、楽しめるようになった。(今は、落語を読んだり聞いたりして楽しんでいる。)

